

JCHO 福井勝山総合病院 地域協議会 第 19 回 議事録

開催日 令和 6 年 12 月 3 日 (火) 13 : 00 ~ 14 : 00

開催場所 病院 2 階講堂

出席者 高木委員、小林委員、高井委員、大久保委員、米村委員、須藤委員

院長挨拶の後、次の議題について協議した。

1. JCHO 福井勝山総合病院 10 周年の中の出来事

平成 26 年 4 月の JCHO 発足から現在までの 10 年間の当院の歩みについて説明を行う。

【ご意見】

外部委員 Q : (「新型コロナウイルス専用病棟を設置し患者の治療にあたる」について) コロナウイルスの病棟を設置されてどれくらいの患者を診られたのでしょうか。

当院委員 A : 病床として最初に 6 床確保しその後最大で 12 床程度まで増床しました。入院患者のトータル数\*を今正確にお答えは出来ませんが、奥越地域の大部分の患者を引き受けることが出来たと思います。

※ 入院患者数 : R2 年 7 月 ~ R5 年 10 月の期間内で 308 名

外部委員 Q : (「2024 年 1 月能登の地震被災地に向け、DMAT 隊を派遣する」について) DMAT の医師は何科の医師を派遣されたのでしょうか。

当院委員 A : 最初の第一隊目は外科の医師を派遣し、続いて第二隊目で内科の医師を派遣いたしました。

2. 地域包括ケア病棟への機能変更

本年 10 月より回復期リハビリテーション病棟から地域包括ケア病棟へ機能変更を行ったことについて説明を行う。

【ご意見】

外部委員 Q : 例えば、大規模災害が起きたときに急な対応として地域包括ケア病棟を使用することはできるのでしょうか。

当院委員 A : 地域包括ケア病棟はレスパイト入院の受入れをしていますので、ベッドにはありますが医療依存度の高い方の受入れを行っていくことは可能です。災害時には恐らくそのような方を優先的に地域包括ケア病棟に入院させていくような形になるかと思えます。

外部委員 Q : 平常時の話になりますがレスパイト入院は急に必要になるような状況もあるかと思いますが申し込みをしてすぐ対応いただけるのでしょうか。

当院委員 A : ケアマネージャーの方や主治医の先生から情報をいただいて、病床が空いていけばなるべく早く入院できるように調整しております。

外部委員 Q： 他院を受診している患者が福井勝山総合病院でレスパイト入院の申し込みを行う場合に、福井勝山総合病院より紹介を受け他院を受診している患者と福井勝山総合病院をほとんど受診していない患者では受入対応に差があったりされるのでしょうか。

当院委員 A： どのような患者さんであっても同様の対応をいたします。現在は土日の対応は行っておりませんが平日であれば速やかに対応いたしますのでご連絡いただければと存じます。

### 3. 令和6年度 防災訓練等実施報告

令和6年度の防災訓練の実施やその他の防災訓練への参加について説明を行う。

#### 【ご意見】

外部委員 Q： 防災訓練の中でトリアージエリアはどのように設定されましたでしょうか。

当院委員 A： 病院の正面入口の外側になります。まず、病院の外でトリアージを行い、トリアージ後に院内に入れる流れとなります。

外部委員 Q： 重症の方はどのように対応されるのでしょうか。

当院委員 A： 今回はトリアージまでの訓練でしたのでその後の対応については行っていませんがマニュアルでは内科の処置室を使用することになっています。

外部委員 Q： 廊下で酸素を使用することは出来ますか。

当院委員 A： 当院は廊下に酸素の設備はついておりません。

外部委員 Q： 災害時にそこが問題になることが多く、これから病院を作るような場合や階層する場合は外来の廊下でも酸素が使えると良いといわれています。

当院委員 A： 当院においては内科の処置室も広いわけではないので患者数によっては各診察室に酸素がついているのでそちらを使用するという想定はしています。

外部委員 Q： 防災訓練をするうえでトリアージエリアのレッドやイエローを入口エリアのどのエリアに設置するかは重要です。せっかく訓練をされるのであればそこまでされた方が良くと思います。

当院委員 A： コロナ禍の間訓練が出来ていなかったこともあり今回は初歩的などころから訓練を行っていたところでした。

外部委員 Q： 保健所とも合同で行えると幸いです。

当院委員 A： こちらこそまた勉強させていただけますと幸いです。

外部委員 Q： 避難訓練はされているのでしょうか。

当院委員 A： 火災訓練の中で夜間を想定として避難訓練を行っています。今回は病棟の方で火災が発災した想定で模擬患者を用意して避難誘導の訓練を行いました。

#### 4. 奥越市民公開講座の開催

令和6年10月19日に開催したJCH010周年記念 奥越市民公開講座と次年度の開催予定について説明を行う。

##### 【ご意見】

なし

#### 5. 健康サロン・出張出前講座の開催

健康サロン・出張出前講座の活動実績及び予定について説明を行う。

##### 【ご意見】

外部委員 Q： ご参考にお伺いしたいのですが出張出前というような言葉は一般的にあるような用語なのでしょうか。

外部委員 A： 市役所などでも出張出前の名称がつく健診などもあるようです。

外部委員 Q： 中学校や高校に出張の教育講座のようなものは可能なのでしょうか。看護師の慢性的な不足があると思いますが、奥越地域に看護師として就職してもらうためには中学生や高校生のうちから働きかけることが必要ではないでしょうか。

当院委員 A： 勝山高校には何回かグループごとのミーティングに入って欲しいというようなご依頼をいただいています。また、今度中学校で女性の職場で働く男性看護師に来て欲しいというようなご依頼もいただいているところです。

当院委員 A： 出来るだけいろいろなことに対応して参りたいと思います。お早めにご依頼をいただけますと対応も行いやすく存じますのでよろしく願いいたします。

#### 6. 当老健施設の地域参加

当院の附属介護老人保険施設の認知症 Café 及び認知症フェアへの参加活動について説明を行う。

##### 【ご意見】

なし

## 7. 意見交換

### 【ご意見】

外部委員 Q：大野市で地域医療構想の会議がありました。奥越エリアから患者が出ていく割合が高く、反対に福井の方から入ってくる割合が低くなっているようです。地域医療の維持のためには大野市や勝山市の病院の中でも特に福井勝山総合病院での受け入れが増えるといいのではと考えます。大野市、勝山市の市民の方に福井勝山総合病院で受診しようと考えてもらえるように、例えば勝山市や大野市の市報に病院の取り組みを掲載し病院のイメージアップにつながるような取り組みを検討していただけないかと思いません。

当院委員 A：勝山市については市報に記事の掲載を行っておりますが、大野市に関しては大野市の企業でないと掲載できないという事情があり難しいところではあります。次回、大野市で開催予定の市民公開講座では新聞広告を利用した広報を行うなど予定しています。

外部委員 Q：外来や入院で大野市の患者はどれくらいの割合でいらっしゃいますのでしょうか。

当院委員 A：勝山市と大野市で3対2の割合となっています。近年、大野市の方の割合が増えており、入院も外来もだいたい割合としては同じくらいになります。一部の疾患ではほとんど人口比と同じくらいで大野市の方が多いいものもあります。

外部委員 Q：大野市の方々は、大きな病気や怪我では県立病院や済生会病院が候補としてあがりやすいように感じます。福井勝山総合病院が一番に候補としてあがるようイメージアップをしていただけないかと思えます。

当院委員 A：そうなれますよう努力して参りたいと思えます。市民公開講座は3回に1回は大野市で行うようにしており、次回開催は、大野市で行うことを予定していますが、広報などもしっかり行い当院を利用しやすいような雰囲気作りに繋げていけたらと考えております。

外部委員 Q：地域包括ケアといえば大野市は市民の方は大きな手術をされた後のリハビリは嶋田病院を考える方が多いように思います。福井勝山総合病院も10月より地域包括ケア病棟を開始されましたが、それを広く周知するなどして大きな手術をされた後は福井勝山総合病院でリハビリをするような流れを作っていけたらいいのではないかと思います。

当院委員 A：当院もそのように考えており、福井大学病院や県立病院の地域連携室と協力して急性期の治療を終えられた方を当院で受入できるよう計画しているところでございます。

当院委員 A： 実際に県立病院などに出向いており、地域包括ケア病棟になったことで受入れの間口が広がったことで術後の方で大野勝山の方がいらっしゃれば当院への紹介をお願いしているところです。まずは周知するというところからになりますので、もしお知り合いの方などでそのような方がいらっしゃいましたらご紹介いただければと思います。

外部委員 Q： 地域包括ケア病棟についてですが、急性期の病院や自院急性期病床からの受入れももちろんあるかと思いますが、在宅からの入院もこれから増えていくはずで、地域包括ケア病棟はまさに勝山市民と大野市民の病床になるかと思えます。地域包括ケア病棟を周知していくことも重要ですが転出率を上げないことや医療圏内で受け入れていくことについての提案になりますが、空床状況などのベッドコントロールの状況を定期的にタイムリーに医師会の先生方と常に共有していく、見える化していくのが一番の解決策になるのではないかと思います。なかなか難しい問題かと存じますが奥越医療圏の外への患者流出阻止や地域からの受入れ、地域への復帰を考えるとそこをメインに考えていくのが得策ではないかと考えます。

当院委員 A： ご参考にさせていただき検討して参りたいと思います。

外部委員 Q： 患者さんのご紹介をいただく場合は、きちんと紹介状を書いていただいているスムーズに在宅療養へ移行を出来たりとうまくいっております。しかしながら患者紹介をした場合に、返書を早くいただける場合とそうじゃない場合があり、様々な理由はあるかと思いますが、開業医としては入院目的でご紹介させていただく際は重症である場合が多いですので入院となった場合はご一報いただけますと幸いです。

当院委員 A： 貴重なご意見ありがとうございます。外来受診をした場合はすぐに報告書を出させてもらっていますが、入院された場合は必ずしもそのような義務があるわけではなかったので今一度検討させていただきます。